

5th ANNIVERSARY!

フェニーチェ堺は開館5周年。次々発表していく魅力的な公演にご期待ください。

FENICE SACAY CALENDAR 2024

大ホール 伝統芸能 THE フェニーチェ文楽 人形浄瑠璃文楽 HOMURA II ～怒群～ 3月2日(土) 開演15:00	大ホール CLASSIC The Real Chopin × 18世紀オーケストラ 3月10日(日) 開演15:00	大ホール お笑い よしもとお笑いライブ in 堺 2024 3月16日(土) ①開演11:00 ②開演14:30	小ホール 伝統芸能 桂宮治 独演会 3月17日(日) 開演13:00	大ホール POPS 徳永英明 4月13日(土) 開演16:00 4月14日(日) 開演15:00
大ホール POPS スターダスト☆ レビュー 4月21日(日) 開演17:00	大ホール CLASSIC 佐渡裕指揮 新日本フィルハーモニー 交響楽団 with 角野隼斗 5月26日(日) 開演15:00	大ホール BALLET 熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring Tour 2024 『ラ・バヤデール』 6月12日(水) 開演18:30	大ホール CLASSIC 大阪交響楽団 フェニーチェ堺 名曲シリーズ Vol.2 6月15日(土) 開演14:00	大ホール CLASSIC 小林研一郎指揮 ハンガリー・ブダペスト 交響楽団 7月6日(土) 開演16:00

最新の公演情報はフェニーチェ堺ホームページをご覧ください。都合により、曲目・公演内容が変更になる場合がございます。

チケット購入先

W WEB購入 (詳細は下記をご覧ください)	S 電話・窓口購入 (詳細は下記をご覧ください)	t チケットぴあ(Pコード) https://t.pia.jp
L ローソンチケット(Lコード) https://l-tike.com	e e+(イープラス) https://eplus.jp	CN CNプレイガイド 0570-08-9999

★ 未就学児 入場不可

チケット購入方法

※ご購入いただいたチケットは公演中止を除き、変更・キャンセルはできません。 ※紛失・破損等いかなる場合においても再発行はいたしません。 ※WEB購入・電話予約での発券・配送には所定の手数料がかかります。

WEB購入 6:00～翌2:00	チケット購入ページ sacayメイトへの登録が必要です sacayメイト 検索	セブン-イレブン ファミリーマート 配送 当日会場引取 ※配送と当日会場引取はクレジット支払いのみ
電話予約 10:00～18:00	堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089 (チケット予約専用) ※一部携帯・CATV接続電話・IP電話からはご利用いただけません。	セブン-イレブン ファミリーマート 配送

窓口 直接購入 9:00～20:00 一般発売日の翌週より 残席がある場合のみ販売	フェニーチェ堺 堺市立柁文化会館 堺市立東文化会館 アルテベル (堺市立美原文化会館)	TEL: 072-223-1000 FAX: 072-223-1005 堺市堺区翁橋町2-1-1 南海高野線「堺東」駅徒歩8分 休館日: 第1・第3月曜(祝日の場合は開館)および年末年始 TEL: 072-296-0015 FAX: 072-291-7083 堺市南区桃山台2-1-2 泉北高速鉄道「柁・美木多」駅前 休館日: 月曜および年末年始 TEL: 072-230-0134 FAX: 072-230-0138 堺市東区北野田1084-136 南海高野線「北野田」駅直結 休館日: 水曜(祝日の場合は開館)および年末年始 TEL: 072-363-6868 FAX: 072-363-0070 堺市美原区黒山167-1 南海バス「美原区役所前」バス停前 休館日: 第2・第4月曜(祝日の場合は開館)および年末年始
---	---	---



フェニーチェ堺
 堺市堺区翁橋町2-1-1
 南海高野線「堺東」駅から
 徒歩8分

劇場で時を超える。

フェニーチェ堺

FENICE SACAY



©一色 美奈保

巻頭特集

2つのショパン国際コンクール優勝者と川口成彦による
The Real Chopin × 18世紀オーケストラ
 川口成彦(ピアニスト) / トマシュ・リッテル(ピアニスト) インタビュー

観覧エッセイ 須賀しのぶ(直木賞作家)「最高の8」

2024
vol.25



目次

- 2 目次
- 3 ペンと劇場
- 4-5 巻頭特集 2つのショパン国際コンクール優勝者と川口成彦による
The Real Chopin × 18世紀オーケストラ
川口成彦 (ピアニスト) インタビュー
- 6-10 公演情報
- 11 堺市文化振興財団の取り組み ほか
- 12 地域のイベント情報 ほか
- 13 特集 後編 トマシュ・リッテル (ピアニスト) インタビュー
- 14-15 ふれる堺

表紙について

「古楽器」という言葉をご存じでしょうか？ 単に古くなった楽器ではなく、たとえば200年、300年前に製造された貴重な年代物の楽器や、それらを復元したものを指します。

ショパンにベートーヴェンにモーツァルト、バッハやハイドンらが活躍していた頃からある楽器のなかには今とは形状が違っていたり、音色や演奏方法が異なるものがあります。完成された現代楽器に比べて扱いにくいものが多いのだそうですが、そのぶん、偉大な作曲家たちが鳴らしたかった音・意図していた旋律をそのまま再現するという意味では、これ以上の道具はありません。

実際、古楽器で弾くことで作曲家が楽譜に書き残した指示の意味がわかり、音の強弱や表情の付け方を改めて理解した演奏者もたくさんいるのだとか。近年は古楽器によるクラシックコンサートも増えています。

今回の表紙で、自分の時代のピアノを弾くショパンのまわりで微笑む3人は、いったい誰でしょう？

ぜひ、巻頭特集をお読みください。

公演情報で「主催：フェニーチェ堺」と記載されているものは、フェニーチェ堺の指定管理者である公益財団法人堺市文化振興財団が開催する公演です。

次号より本誌のデザインと内容を刷新いたします。新しい誌面にご期待ください。

ペンと劇場

最高の8

直木賞作家 須賀しのぶ

「ベルリン・フィル八重奏団」2023年11月30日公演

物語に出てくるような、大図書館。フェニーチェ堺の大ホールに入った時、まさきにそう感じた。黒とこげ茶色の、不規則な四角い枠で構成された壁は、天井までぎっしりと古書が詰め込まれた書棚のようで、胸がときめいた。

音楽は大好きだ。とくに、直接音に触れる喜びはなにものにも代えがたい。フェニーチェ堺の音響の素晴らしさは聞いていたけれど、建物自体も素晴らしい。明るく洗練されたロビーから異国の大図書館のような大ホールに入ると、さあここから素敵な非日常が始まるぞという期待がかきたえられる。

今日は待ちに待ったベルリン・フィル八重奏団のコンサート。実は一週間前にも、東京でベルリン・フィルの演奏を聴いている。奇才キリル・ペトレンコの指揮のもと、一条乱れぬオーケストラの響きは完璧で隙が無く、私はただただ圧倒された。あまりに集中して緊張していたのか、帰り道にものすごく肩が凝っていたことに気がついたぐらいだ。そして今日は、第一コンサートマスターの榎本大進氏を筆頭に、あの素晴らしいオケの各首席奏者級による八重奏という夢のような舞台。ああ今日もすごい音が聴ける！と、わくわくして「その時」を待つ。

開演予定から少し遅れ、拍手のなか八名がステージに現れた。と思ったら、第二ヴァイオリンのトマシーニ氏が、弦が切れたのかすぐに舞台袖に引っ込んでしまい、なかなか出てこない。それを苦笑しながら待つステージ上の楽団員、同じく笑いながらのんびり待つ観客の空気がすごくいい。爆上がりする期待と緊張ですでに凝り始めていた私の肩も、ふっとほぐれた。

戻ってきたトマシーニ氏がおめんねとお辞儀をすると、すぐに演奏は始まった。シューベルト『6つの楽興の時』。ハンス・アブラ



ハムセンによる八重奏編曲版だ。第一曲モデラート、その明るい冒頭で体がふわっと浮きあがったように感じた。無音から音に移る瞬間のなめらかさ、展開の軽やかさ、さすがの一言。各奏者のとびきり美しい音のはっきり聴こえる。音響も評判通り素晴らしい。音の粒が浮かび上がり、でもひとつが突出することなく、降り注ぐ音にやわらかく包み込まれるようだ。世界最高峰の音を最高の状態で聴かせてくれる……なんて贅沢な時間だろう。

二曲目の細川敏夫『<テクスチュア>八重奏のための』は東洋的なアプローチをもつ曲で、螺旋を描くように伸びていく音が神秘的で心に残った。この感じ、覚えがあるけどなんだっけ……と思っていたら、休憩時間に隣のご夫婦が「曼荼羅っぽいな」と話されていた。そうそれ！私も曼荼羅見えた！と脳内でご夫婦と握手する私。別の席からは「なんであの曲であんな揃うん？」「信じられへん」。うんうん、わかる。信じられんよな。忌憚のない言葉がぼんぼん飛び交うのが心地よい。この神がかった演奏をみんな全身で楽しんでいる。おそらく、舞台上の奏者たちも本当に楽しそうに演奏しているのもあるだろう。

第二部はシューベルト『八重奏曲 へ長調 Op.166 D.803』。圧巻。いやもう凄かった。お得意なのかな？ 実はあまり聴いたことなかったけれど(ごめんさい)、こんなにも美しい曲だったのか。しかしこの音の広がりや深み、八名とはとても信じられない。実は倍ぐらいいるのでは？とステージに目を凝らすも、やっぱりどう見ても八名だった。ううむ。この曲を最初にベルリン・フィル八重奏の演奏で、それもこの音響で聴けたのは幸運以外のなにものでもない。興奮と感謝で拍手を送り、夢見心地でホールを出る。

おお、今日はまったく肩が凝っていない。ただただ幸せな気持ちで、会場前の美しいクリスマスツリーとポスターを写真におさめ、日常に帰っていく。



革命前夜

須賀しのぶ著 文藝春秋
定価1,012円(税込) 好評発売中

1989年、日本の喧騒を逃れ、ピアノに打ち込むために東ドイツに渡った眞山柗史。彼が留学したドレスデンの音楽大学には、学内の誰もが認める二人の天才ヴァイオリニストがいた。正確な解釈でどんな難曲でもやすやすと手なづける、イエンス・シュトライヒ。奔放な演奏で、圧倒的な個性を見せつけるヴェンツェル・ラカトシュ。ヴェンツェルに見込まれ、学内の演奏会で彼の伴奏をすることになった眞山は、気まぐれで激しい気性をもつ彼に引きずり回されながらも、彼の音に魅せられていく。冷戦下の東ドイツを舞台に、一人の音楽家の成長を描いた、著者渾身の歴史エンターテインメント。

須賀しのぶ(すがしのぶ)
1972年、埼玉県生まれ。作家。『革命前夜』で第18回大藪春彦賞を受賞。『芙蓉千里』『また、桜の国で』等、著書多数。

ペンと劇場：著名な作家がフェニーチェ堺に足を運び、実際に主催公演を観覧して書いたエッセイです。



川口成彦(ピアニスト) インタビュー

いよいよ開催が近づく本公演にソリストとして出演する、日本を代表するフォルテピアノ奏者の川口成彦さんと、第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第1位のトマシュ・リッテルさんにお話をうかがいました。



川口成彦

1989年生まれ。第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位。18世紀オーケストラと共演し、コンセルトヘボウ管のメンバーとは室内楽形式によるピアノ協奏曲のリサイタルを開いた。第46回日本ショパン協会賞受賞。

—この公演はタイトルに「The Real Chopin」とあります。どのように感じていますか？

今回取り上げるショパンの曲はすべて、ショパンが10代後半から20歳にかけて作曲した作品で、青春時代の彼の心からあふれ出した素直な情動を感じることができます。

ショパンは“ピアノの詩人”と形容されますが、その作品のほとんどはピアノ曲。ピアノで自らの感情を余すことなく表現できた、稀有な音楽家でした。

彼の遺した楽譜を見ると、ものすごく細かい指示が書いてあります。舞台役者にとっての台本のようなもので、事実、ショパンには役者としての素質もあったようで、彼が役者の道を選ばなかったのを惜しむ人もいたそうです。

ショパン自身「音楽は言語表現だ」と言い、弟子にも「ピアノとして弾くのではなく、声楽家のように弾きなさい」と教えたほどでした。当時の人から「あんな演奏は聴いたことがない」と別格扱いされるくらいで、ピアノをただの鍵盤楽器ではなく、人間の声として扱うような感覚を持っていました。彼のピアノへのこだわりは新しい演奏方法を生み出し、ショパンを境にピアノ音楽というジャンルが広がったと言われるほどの、いわば開拓者だったのです。

今回の演奏会では若き日のショパンの、少し“尾崎豊”を思わせるような、みずみずしい感情の吐露に思いを寄せ、その心に近づきたいと考えています。

プレイエル
1843年7月18日製造、10月9日エビネイ子爵が購入。
マホガニーケース 製造番号No.10456 長さ205cm
タカギクラヴィア所有
2018年度ショパン国際ピリオド楽器コンクール認定楽器

—ピアニストの3人がショパン存命時のフォルテピアノ【1843年製プレイエル】を弾きますが、オーケストラも全員がピリオド楽器※で演奏します。

※ピリオド楽器：楽曲が作曲されたときに製作された古楽器、もしくはその様式を復元したもの

芸術にはテクノロジーだけでは計りきれないところがあると思っています。もちろん現代のピアノは音も良く弾きやすいのですが、作品が生まれた当時の楽器でしか出せない音の質感があるとも考えています。以前、明治時代のカメラで撮影できる企画展を訪れたことがあるのですが、やはり写真に立ち現れてくる質感や色合いには独特のものがありました。

実は、僕には文通へのひそかな憧れがあります。携帯電話がなかった時代に、皆が駅の黒板にメッセージを書いて待ち合わせをしていたことにも、何とも言えないロマンを感じます。どちらも待つことに意味があり、情緒がありました。

たとえば大切な人に手紙を送るとしたら、僕はツルツルとした手触りに整えられた紙よりも、少しザラリとしているかもしれないけれど風合いのある和紙を選びます。良い悪いではなく、どちらが自分の感性を揺さぶるか、なんだと思います。機能性や便利さに幸せを感じる人もいるし、失われた情緒に思いを馳せ共感する人もいます。ピリオド楽器での演奏にも、そういった側面があるのではないかと思います。

—共演する18世紀オーケストラについて教えてください。

屈指のリコーダー奏者だったフランス・ブリュッヘンがピリオド楽器だけで演奏する楽団をつくろうと、同好の士に声をかけて1981年にオランダ・アムステルダムで設立した、古楽オーケストラの先駆的な存在です。クラシック史においても重要なオーケストラで、当初は18世紀のバロックや古典派の音楽(バッハやモーツァルトなど)を中心に演奏していました。

一般的なオーケストラのようにオーディションで入団するのではなく、古楽を愛しピリオド楽器を演奏する人同士で「やろう!」「うん、やろう!」と集まったような経緯があるため、その仲間意識が音楽をする喜びに結びついていて、“村のオーケストラ”の雰囲気を持つというか、とてもあたたかみのある演奏をする人たちです。

音楽では技術に焦点が当たることがありますが、まずは楽しんで演奏することがすごく大事だと思っていて、僕もピリオド楽器で演奏することに思い入れがあります。今回登場するピアニストのトマシュ・リッテルさんもそうだし、ユリアンナ・アヴデーエワ(第10回ショパン国際ピアノコンクール第1位)さんは現代ピアノも弾くけれど、フォルテピアノも大好きな人です。

—公演の見どころは？

昔の楽器は全部手作りで、今と比べればどこかごこちなさがある反面、人間味がすごくあって、“不完全である”という美しさがあります。

そんな当時の楽器を使うことで、作曲家に近づきたい。僕にとってショパンを演奏するという事は、時を超えて彼と対峙し共感し合うこと。もっとショパンに近づき、共感を深める手段としてフォルテピアノを弾き、古楽オーケストラと共演します。

18世紀や19世紀の人たちと現代人では、心の状態が違うかもしれません。でも音を通じて当時の人たちとコミュニケーションをとり、通じ合ってみたい。客席の皆様と一緒に、ピアノの詩人ショパンの心象風景に入り込んでいくような演奏会にしたいと思います。

取材・文＝山田晃平

13ページ 特集後編 トマシュ・リッテル(ピアニスト) インタビューに続く

CLASSIC 大ホール 2つのショパン国際コンクール優勝ピアニストと川口成彦による ザ リアル ショパン The Real Chopin × 18世紀オーケストラ

3月10日(日) 開演15:00

ショパンのピアノ+管弦楽作品をすべてピリオド楽器で演奏することをコンセプトとした「The Real Chopin × 18世紀オーケストラ」では、“2つのショパン国際コンクール”の優勝ピアニストである、ユリアンナ・アヴデーエワとトマシュ・リッテル、そして川口成彦が1843年製のプレイエル・ピアノを弾き、世界有数の古楽オーケストラである18世紀オーケストラと共演します。

<プログラム>

モーツァルト:交響曲第40番 短調 K.550

藤倉大: Bridging Realms for fortepiano

(第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール委嘱作品/日本初演) *川口成彦(フォルテピアノ)

ショパン:ポーランドの歌による幻想曲 op.13 *川口成彦(フォルテピアノ)

演奏会用ロンド「クラコヴィアク」 op.14 *トマシュ・リッテル(フォルテピアノ)

ピアノ協奏曲第1番 短調 op.11 *ユリアンナ・アヴデーエワ(フォルテピアノ)



18世紀オーケストラ



ユリアンナ・アヴデーエワ

トマシュ・リッテル

川口成彦

好評発売中 S席13,000円 A席11,000円 B席9,000円 主催:フェニーチェ堺

W S U 254-686 56051 e ★

W S U については裏表紙をご覧ください

●最新の公演情報はフェニーチェ堺ホームページをご覧ください ●都合により、公演内容が変更になる場合がございます ●掲載情報は1月22日現在

チケットを購入する



開館5周年記念

FENICE SACAY LINE UP 2024

2024年度 フェニーチェ堺 主な主催公演ラインナップ



4月13日(土)・14日(日) 大ホール
Hideaki Tokunaga Concert Tour 2024

4月21日(日) 大ホール
スターダスト☆レビュー ツアー2022~2024「ブギウギ ワンダー☆レビュー」

6月12日(水) 大ホール
熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring Tour 2024『ラ・バヤデール』

10月24日(木)予定 小ホール
ワカテ de ワカル フェニーチェ文楽

11月12日(火) 小ホール
春風亭一之輔独演会

11月23日(土・祝) 大スタジオ
チェコ・ナイブニ人形劇場 こいぬと機関車—CHOO.CHOO.WHISLTE.WOOF!—

12月8日(日) 大ホール
鼓童十二月特別公演「山踏み」

12月10日(火) 大ホール
フィルハーモニー・オーボエ・カルテット with 佐渡裕

12月15日(日) 大ホール
渡辺貞夫

12月28日(土)・1月25日(土) 小ホール
川口成彦 フォルテピアノ・リサイタルシリーズ 第1回、第2回

2025年1月18日(土) 小ホール
桂南光独演会

2025年3月22日(土) 大ホール
サー・アンドラーシュ・シフ指揮 カペラ・アンドレア・バルカ

2025年3月23日(日) 小ホール
桂かい枝独演会

2025年3月30日(日) 大ホール
100チェロコンサート ジョバンニ・ソツリマ

これらのほかにも多彩な公演を開催予定! 各公演の詳細が決まり次第、順次発表いたします。

開館5周年企画

3ヶ月連続

ピアノ・コンチェルト・スペシャル

~3人の今を聴く~

いま最も注目を集める若手男性ピアニストから、人気の3人がフェニーチェ堺に初登場!
日本を代表する熟練の指揮者たちとコラボレーションし、躍動感あふれる演奏で魅了します。



すみの はやと
角野隼斗
×
佐渡裕
(新日本フィルハーモニー交響楽団)



うしだ とも はる
牛田智大
×
山下一史
(大阪交響楽団)



かめ い まさ や
亀井聖矢
×
小林研一郎
(ハンガリー・ブダペスト交響楽団)

大和証券グループPresents 佐渡裕指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 with 角野隼斗 (ピアノ) 5月26日(日) 大ホール 開演15:00
【予定プログラム】チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23 / 交響曲 第5番 ホ短調 作品64

チケット発売日:2月24日(土)
S席10,000円
A席8,000円 B席6,000円



佐渡裕/レナード・バーンスタインや小澤征爾の薫陶を受けた世界的指揮者。ウィーン・トーンクンストラ管音楽監督、サントリー「1万人の第九」総監督など。2023年より新日本フィル音楽監督。



角野隼斗/1995年生まれ。世界各国のオーケストラと共演するほか、クラシックにとどまらない活躍を見せる若手屈指のピアニスト。Cateen(かていん)名義のYouTubeチャンネルは登録者数130万人超。



大阪交響楽団 フェニーチェ堺 名曲シリーズ Vol.2

【予定プログラム】シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 / チャイコフスキー:交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」

チケット好評発売中
SS席4,500円 S席3,300円
A席2,800円 学生席1,000円



山下一史/20世紀の偉大な指揮者のひとりカラヤンのアシスタントを務め、その代役としてベルリン・フィルを指揮したことで脚光を浴びた、日本が誇る名指揮者。2022年に大阪交響楽団の常任指揮者に就任。



牛田智大/1999年生まれ。クラシックの日本人ピアニストとして最年少の12歳でCDデビュー。ロシア・ナショナル管、ハンガリー国立フィル、ワルシャワ国立フィルなどと共演を重ねる若手の実力派。



小林研一郎指揮 ハンガリー・ブダペスト交響楽団

【予定プログラム】リスト:ピアノ協奏曲第1番 / チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 作品64 ほか

チケット発売日:2月10日(土)
S席13,000円 A席11,000円
B席9,000円 C席7,000円



小林研一郎/「炎のマエストロ」と称され、情熱的な指揮で知られる。ハンガリー国立フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管、ロンドン・フィル、N響、読響など国内外の名だたる楽団でタクトを振ってきた名匠。



亀井聖矢/2001年生まれ。国内外で多くの賞を受賞し、2022年ロン=ティボー国際コンクールピアノ部門で第1位。サントリーホールでのデビュー公演では2000席が完売。N響ほか有力オケとの共演多数。



●最新の公演情報はフェニーチェ堺ホームページをご覧ください ●都合により、公演内容が変更になる場合がございます ●掲載情報は1月22日現在

チケットを購入する



伝統芸能
大ホール

THE フェニーチェ文楽 「HOMURA II ～怒群～」 文楽が表現する“怒”の世界 3月2日(土) 開演15:00

昨年好評を博したHOMURAのコンセプトを引き継ぐ、人形浄瑠璃文楽公演の第2弾。情念の炎に身を焼かれるように、美しい女性が鬼や大蛇に変じてしまう2作品をお届けします。“日高川”の演出の秘密を解説するコーナーや、出演者による座談会もお楽しみください。

演目:「増補大江山」戻り橋の段、「日高川入相花王」渡し場の段
出演者:竹本鍛太夫、鶴澤清介、桐竹勘十郎 ほか



桐竹勘十郎(人間国宝)

あらすじ

「増補大江山」戻り橋の段

源氏の武将・源頼光の名高い家臣四天王のひとりである渡辺綱が鬼の腕を切り落としたという「平家物語」の逸話を題に取ったのが、戻り橋の段です。場面は月夜の一条戻り橋。京都堀川にかかる一条戻り橋といえば陰陽師の安倍晴明とも縁のある、尋常ならざる場所です。鬼が出るとの噂で人通りもない夜道で、綱は艶やかな女性と出会います。鬼を恐れる様子との女性と同行する綱でしたが、堀川の水面に映るその姿から、この女こそ鬼だと見破ります。やがて正体を表した鬼に、綱は名刀髭切丸を一閃し……。美しい女性がたちまち鬼へと変化して襲いかかってくる衝撃の展開と、勇ましく戦う綱の立ち回りをお楽しみください。

「日高川入相花王」渡し場の段

紀州道成寺に残る安珍・清姫伝説を元にした浄瑠璃。眉目秀麗の僧・安珍は、難を避けてやってきた桜木親王の仮の姿。彼に心を奪われていた宿屋の娘・清姫は、追っ手から親王を助けるために父がみせた機転のせいで、安珍と添い遂げられると思込んでしまいます。しかし安珍は帰路に必ず立ち寄ると言い置き、そのまま恋人と去ってしまう。安珍への恋慕に取り憑かれた清姫は、戻らぬ安珍を追って夜の日高川へと辿り着き……。ここから渡し場の段が始まります。川を渡してほしいと船頭に懇願する清姫でしたが、安珍に足止めを頼まれていた船頭は首を縦に振りません。ここで初めて真実を知り、嫉妬や恥辱に悶えんばかりの清姫はついに大蛇へと変じ、黒々と横たわる日高川を渡るのです。果たせぬ恋に絶望し、想い人を殺してしまいたいとまで思い詰める清姫の、切なくも凄まじい情念が胸を打つ物語です。

好評発売中 5,500円 主催:フェニーチェ堺 制作協力:(一社)日本の伝統芸能 協力:関西舞台株式会社

鑑賞が3倍面白くなる! ワカル文楽 観る前セミナー

上演する2つの演目を人気の講師がわかりやすく、ていねいに解説。鑑賞前にぜひご参加ください。講師:東 晴美

2月25日(日) 開始15:00 文化交流室

申込受付中 1,500円 自由席

伝統芸能
小ホール

桂宮治 独演会 3月17日(日) 開演13:00

「令和の爆笑王」の異名をとる桂宮治がフェニーチェ堺に初登場! 息もつかせぬエネルギーな高座をお届けする、宮治のミラクルな世界をたっぷりご堪能ください。

出演:桂宮治 ほか

SOLD OUT 4,000円 主催:フェニーチェ堺

522-254 54024



©武藤奈緒美

W S U 522-254 54024 e についてはこちらをご覧ください

●最新の公演情報はフェニーチェ堺ホームページをご覧ください ●都合により、公演内容が変更になる場合がございます ●掲載情報は1月22日現在

チケットを購入する



文楽のススメ ～落語家 桂かい枝の視点～

落語家生活30周年を記念した独演会を1月13日にフェニーチェ堺で終えたばかりの桂かい枝。古典芸能を気軽に楽しんでもらいたいと、20年以上にわたって人形遣いの吉田玉翔らと共に落語と文楽の垣根を超えた公演を続けており、人形浄瑠璃文楽の世界とは縁が深い。3月2日(土)に大ホールで上演される「THE フェニーチェ文楽 HOMURA II～怒群～ 文楽が表現する“怒”の世界」をテーマに、上方芸能に詳しいライター仲谷暢之が話を聞いた。



仲谷 この3月に開催される「THE フェニーチェ文楽」公演について、ということなのですが、今回は公演名に「怒群」と書いて「ほむら」と読ませるサブタイトルが付いています。これは去年の「THE フェニーチェ文楽」が、サブタイトルに「炎群」と書いて同じく「ほむら」と読ませたと共通していて、今回が第2弾という位置付けになります。

かい枝 2回目ということは、前回の評判がよかったんでしょうね。で、怒りの群れ?

仲谷 怒りをテーマに選ばれた2つの演目が上演されます。「増補大江山」戻り橋の段は、若菜という女が橋の上で鬼に変じて、武士の渡辺綱に襲いかかってくる話。「日高川入相花王」渡し場の段は安珍・清姫伝説にまつわるもので、想い人の安珍を追いかける清姫が大蛇に姿を変えます。かい枝さんは文楽の方とよくお仕事をされていますが、鑑賞のほうは?

かい枝 大阪公演の際は必ず一度は伺います。芸員さんとの飲み会がメインだったりしますが(笑)。好きな演目は「妹背山婦女庭訓」妹背山の段。舞台の上下に床が作られた独特の演出で、まるで文楽版のロミオとジュリエットのような結ばれない男女の恋がすごく胸に迫ります。文楽は本当に素晴らしい芸術だと思いますが、上演時間が今の時代には長いかなあという気がします。

仲谷 なんでもコンパクトになっている時代ですから、通して観ればたしかに長いかもしれませんが、学校から行く鑑賞会で初めて文楽を観たという人も結構多いと思うのですが、途中で寝てしまって「面白くなかったなあ」というのが原体験になりやすいところが、とても残念です。

かい枝 ある程度大人になって色々な人生経験をして、楽しめるようになるころがあると思います。たとえば文楽らしい話の組み立てとして、主君のために我が子を殺すくだりがあったりしますが、そこで表現される怒りや悲しみ、親子の愛などは、なるほど今の常識と違うところはあるけれど、ちゃんと筋を追ってみたら情が沁みるんですよね。どの演目もとても古い本なのに、日本人だからちゃんと理解できる。

仲谷 同じ古典芸能の住人として、「三業一体の芸」はどう感じますか? 文楽では太夫、三味線弾き、人形遣いの3者の調和がとても重要です。

かい枝 やっぱすごい芸やと思います。前に高知で一緒にお仕事をしたときに、太夫さんに演じ分けをしてもらったことがあるんです。「あの鐘は、はや九つ」という台詞を、かしこい子ども、そうでもない子ども(笑)、おじいさん、若者の4パターンで演じてもらったのですが、声のトーンや出し方——抑揚の付け方なのかしら、とにかく全部違う。落語にも色々な人物が出て来ますが、あれはお客様が付いてきてくれるだけで、そこまでの演じ分けはしていません。文楽ではどの人形がしゃべっているのかわからないといけないので、見事に明確に違うんですよ。太夫さんの技術はやっぱりすごいです。

仲谷 かい枝さんは断家なので太夫の語りに目が行くかもしれませんが、僕は文楽の、人形劇としての側面にすごく魅力を感じます。

かい枝 そう、お客様によって座る場所が違うんですよね。人形が好き

人は下手(しもて:客席から舞台に向かって左側)側に座るし、太夫さんや三味線さんが好きなお客様で、もう人形を観ていないくらいの人もいます。



仲谷 三味線弾きが登場人物たちの心情を太棹で奏でる技術も素晴らしい。それぞれが卓越した3つの芸が合わさることが文楽の魅力ですが、交流のあるかい枝さんから見て、芸員さんの印象は?

かい枝 お客様を楽しませようという意識はすごく強くて、落語家以上に『芸人』だと感じますね。お笑いじゃないので大きな表現はしませんが、集団芸という枠の中でそれぞれがちょっとした変化をつけたりして、楽しませようとする。そのあたりの機微がわかるようになると、また文楽鑑賞の面白味が増します。ところで文楽は落語と違って華のある人、男前が結構多いんですよ。

仲谷 ましてや太夫は声がいい、三味線はうまい、人形は動きが美しい、と。

かい枝 舞台上では黒紋付を着て真剣にやっていますからね、そりゃあカッコいいですよ。断家みたいにアホな顔しないもん(笑)。

仲谷 いま流行りの“推し活”みたいな感覚で、文楽を観に来るのもいいですよ。

かい枝 全然ええと思う。「文楽に行ってくる」と言えば、すごく文化的な響きがありますやん、落語の寄席とは違って(笑)。和装で観劇に出かけるのもいいし。きっかけは男前でも文楽がわかってきて世界観に魅了され始めると、今度はだんだん顔が見えなくなってきて、芸そのものに引き込まれるようになります。

仲谷 見え方が変わるという意味では、今回の演目と通じるところがあるかもしれませんが、女性が鬼や大蛇に変じるわけですから。物語の最中に、きれいな顔がバカッと一瞬で鬼に変わる。

かい枝 あれ、いったいどうなってるんやろね。

仲谷 そこに注目して観るだけでも面白いと思います。さらに「THE フェニーチェ文楽」では出演者の竹本鍛太夫さん、鶴澤清介さん、桐竹勘十郎さんという三業の重鎮による座談会や、大道具や演出についての解説コーナーもあります。

かい枝 それはいいですね! 芸員さんの素の姿が見られるのは貴重ですし、裏方の話はなかなか聞けないですから。で、公演時間が休憩込みで約120分!? 初めての人にはちょうどいい長さです(笑)。

仲谷 「増補大江山」戻り橋の段は、源頼光の鬼退治で知られる酒呑童子のお話が背景ですし、「日高川入相花王」渡し場の段は安珍・清姫の伝説から来ています。誰もが少なからず知っている題材なので、文楽ファンにも初心者の方にもぜひ観てもらいたいですね。



取材・文=山田晃平

BALLET
大ホール

Daiwa House® PRESENTS

熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring Tour 2024 『ラ・バヤデール』

6月12日(水) 開演18:30

W S U 524-164
□ 54868 e ★

ドラマチックなスペクタクル・バレエ、
熊川哲也版『ラ・バヤデール』ついに関西へ!

舞台は古代インド。寺院の舞姫ニキヤと戦士ソロルは密かに愛し合っており、神に永遠の愛を誓う。しかし勇敢なソロルを気に入る領主ラジャは、娘である王女ガムザッティとの結婚を彼に命じる。権力と彼女の美しさに抗えず、結婚を承諾してしまうソロル。そこにニキヤに求愛を拒絶された大僧正も加わった。愚かな人間たちが引き起こしたこの愛憎劇の末路は――。

芸術監督:熊川哲也

出演:ニキヤ=岩井優花、ソロル=堀内将平

ガムザッティ=成田紗弥

ほか Kバレエ トウキョウ

管弦楽:シアター オーケストラ トウキョウ

演出・再振付:熊川哲也

音楽:レオン・ミンクス

チケット発売日:2月3日(土)
S席16,000円 A席12,000円
B席9,000円 C席7,000円
Kプラチナシート20,000円
主催:フェニーチェ堺
特別協賛:大和ハウス工業株式会社
制作:K-BALLET/TBS



©Ayumu Gombi

お笑い
大ホール

よしもとお笑いライブ in 堺 2024

～堺っ子みんなで笑おう! 爆笑漫才&吉本新喜劇スペシャル～

3月16日(土) 開演 ①11:00 ②14:30

W S
U 524-086
□ 56474
e ★

出演:矢野・兵動、銀シャリ、ミルクボーイ、ゆりやんレトリィバァ ほか

吉本新喜劇(アキ、山田花子、島田珠代、高井俊彦、大島和久、前田まみ、松元政唯、生瀬行人 ほか4名)

好評発売中 <前売り/当日> S席5,000円/5,500円 A席3,500円/4,000円 B席2,500円/3,000円 主催:吉本興業 共催:フェニーチェ堺

POPS
大ホール

スターダスト☆レビュー ツアー2022～2024

「ブギウギ ワンダー☆レビュー」

4月21日(日) 開演17:00

デビュー43年目を迎えた現在も100公演を超える全国ツアーを展開し、ライブ・バンドとして根強い人気を誇るスタ☆レビ。
2年をかけて全国各地を回る本ツアーで、フェニーチェ堺に初登場!

チケット発売日:3月2日(土)

一般8,500円 ジュニア・シニア・障がい者(児)8,000円

主催:スタ☆レビコンサート事務局 共催:フェニーチェ堺 協力:サウンドクリエイター

W S U 258-826 □ 56278 e ★



W S U □ e ★ については裏表紙をご覧ください

●最新の公演情報はフェニーチェ堺ホームページをご覧ください ●都合により、公演内容が変更になる場合がございます ●掲載情報は1月22日現在

チケットを購入する



11月23日開催「クリスマスツリー点灯式2023」レポート

晴天のもと開催した本イベントに、たくさんのお客様がご来場くださいました。特設ステージで行われた日用品演奏ユニット kajiiのミニコンサートでは、身近なもので作られた楽器の意外な音に「おお〜!」という声。点灯式直前に実施したワークショップに参加してくれた子どもたちは、自分たちで作った釘のリースチャイムでkajiiの演奏に特別出演! ツリー点灯の瞬間を一緒に彩ってくれました。ピンクで揃えた衣装が印象的なゴスペル隊(fromゴスペルワークショップ)のパワフルな歌唱は、お客様もノリノリになるパフォーマンス。5店舗によるキッチンカー&ブース出店もあり、活気あふれる点灯式になりました。(イベント担当O)



堺市民芸術文化ホール(フェニーチェ堺)の整備へご寄附いただいた企業の皆様

芸術文化の創造・交流・発信の拠点となるフェニーチェ堺の整備に対し、下記の皆様より堺市あてに寄付をいただきました。そのご芳志に感謝の意を表します。(申込順)

プラチナ芸術文化会会費

コーナン商事株式会社・堺化学工業株式会社・堺市農業協同組合株式会社クボタ・株式会社シマノ・株式会社 サカイ引越センター株式会社 コノミヤ・EH株式会社・ダイキン工業株式会社 堺製作所 医療法人 邦徳会 邦和病院

ゴールド芸術文化会会費

前田製菓株式会社・株式会社 ダイネツ・株式会社ニッコー・堀富商工株式会社 株式会社ハヤシ・泉南乳業株式会社・あさひ不動産株式会社・太陽バーツ株式会社 株式会社芝田化工設計

オフィシャルサポーターA
大阪信用金庫・株式会社 ツルオカフジ・株式会社 紀陽銀行
株式会社 テックオカフジ・株式会社 ニチエイ・株式会社 東久・大裕興業株式会社
株式会社 つば市製茶本舗・株式会社 リバテック・八文字会計事務所・藤原電機工業株式会社
大阪南農業協同組合・株式会社 アスト中本・要薬品株式会社・浅香工業株式会社・山本石油販売株式会社
向陽エンジニアリング株式会社・株式会社 ジェイコムウエスト・株式会社 新川製作所・株式会社 サニコ
南海鋼材株式会社・株式会社 三翠社・丸一鋼管株式会社・株式会社 テクノアヤマ
まぐろパーク 大起水産株式会社・宇部興産株式会社・池藤織布株式会社・株式会社 加地テック
新日織住金株式会社 和歌山製織所・社会医療法人 啓仁会 堺咲花病院・日新製鋼株式会社 堺製造所
医療法人 津藤会 堺 近藤病院・株式会社 羽車・株式会社 東陽電気商会・京都興業株式会社
株式会社サンエス・株式会社和泉利器製作所・株式会社セイケイ 堺製造所・株式会社酒井鉄工所

※その他多くの企業・団体・個人の皆様からご寄附を頂戴しました。

堺市文化振興財団の地域に根ざした取り組み

堺市文化振興財団では、堺市内の小中学校・こども園、子育て広場、病院・福祉施設、子ども食堂といった地域の様々な場所で、コンサートやワークショップを実施しています。クラシック音楽、オペラ、絵画、造形、能楽、バレエ、コンテンポラリーダンスといった様々な芸術ジャンルを取り扱い、それぞれ専門の経験豊富なアーティストと連携して、受け入れ先と調整しながら企画を行います。またこうした現場は、財団が運営する〈堺市新進アーティストバンク〉に登録する若手アーティストが経験を積み機会にもなっています。登録者に向けた「実践研修プログラム」とともに、地域社会に貢献できる優れたアーティストを堺市から輩出することを目指して、日々事業に取り組んでいます。

実施報告

子ども食堂に芸術家がやってくる!

令和3年度から堺市内の子ども食堂でアーティストとともに芸術ワークショップを開催しています。今年度、「にしのかまふく食堂(堺区)」では、ごみや廃材を使って作品をつくり地域の各施設に展示する活動を、「PROJETO CONSTRUIR KODOMOSHOKUDOU(堺区)」では、演劇俳優とともに言葉や身体を使った遊びに取り組む活動を、「いつはまスマイル食堂(西区)」では、即興や創作を通じて子どもたちが音楽をつくりたり音楽で遊んだりする活動を、それぞれ実施しています。どの食堂でも、1年間同じアーティストが通い、食堂実践者の皆さん、アーティスト、そして私たち財団職員が一緒になって芸術ワークショップを作り上げます。これまで、芸術ワークショップに参加することで、子どもたちの普段とは違う表情や様子が見られたとか、他方のアーティストからは、地域社会とかかわることで芸術・表現の新しい形を垣間見ることができた、というような感想をいただきました。また令和5年10月からは堺市社会福祉協議会と連携して、より多くの子ども食堂にアーティストを派遣する仕組みがスタートしました。堺市における「子ども食堂×芸術」の取組への応援・ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



芸術文化イベントを探すならコチラもおすすめ

フェニーチェ堺と同じく堺市文化振興財団が運営する、皆様の身近な施設で実施する催しを一部ご紹介。

W S 及びチケット購入については裏表紙をご覧ください ※都合により、イベント内容が変更になる場合があります。

アルテベル(堺市立美原文化会館) ホール アルテベルシネマ ～シェフ ミツ星フードトラック始めました～

3月2日(土) 開演13:30

フードトラックの移動販売をはじめた一流レストランの元料理長のアメリカ横断の旅を描いたハートフルコメディ。



©2014 Sous Chef, LLC. All Rights Reserved.

発売中
<前売>500円 <当日>600円 全席指定
主催:アルテベル(堺市立美原文化会館)
問い合わせ:072-363-6868

W S 56058

堺文化会館 ホール 大阪府立淀川工科高等学校吹奏楽部 特別演奏会

3月10日(日) 開演14:00

自分たちで作り上げる音楽の楽しさや喜びを感じながら、聴いてくださる人にその思いを伝えるためのコンサートです。



発売中
一般2,000円/ヘア(高校生以下と一般)3,000円 全席指定
※ヘアチケットは会館窓口のみで販売、公演前日まで。
主催:堺市立梅文化会館
問い合わせ:072-296-0015

W S 55334

さかい利品の杜 企画展示室(2階) さかいアートパワー ～堺市新進アーティストバンク作品展～

3月2日(土)～17日(日) 9:00～18:00

堺市新進アーティストバンク美術部門登録者である若手アーティスト達が、書、立体造形、染色、写真、絵画の作品を展示します。



入場無料 主催:公益財団法人堺市文化振興財団 共催:さかい利品の杜
問い合わせ:072-228-0880(平日9:00～17:30)



堺市立東文化会館 メインホール オーケストラの日2024 第17回 0歳児からの親子で 楽しむオーケストラ ～世界音楽の旅“フランス”～

3月31日(日) 開演10:30

0歳児から参加できるクラシックコンサート。“指揮者体験”や“音楽リズムあそび”のコーナーも。

指揮:水戸博之
うたのお兄さん:新井宗平 お姉さん:山本かずみ
ソプラノ:小林夏実(堺市新進アーティストバンク)
管弦楽:大阪交響楽団

発売中 大人1,500円/子ども500円(0歳～小学生) 全席指定
主催:堺市立東文化会館 協賛:大和ハウス工業株式会社
問い合わせ:072-230-0134
※乳幼児のおさま(膝上鑑賞)の場合もチケットが必要です。



©Taira Tairadate



W S 54270

特集 後編 トマシュ・リッテル(ピアニスト) インタビュー



©T. ZYDATISS

トマシュ・リッテル

——18世紀オーケストラの弾き振りは大きなチャレンジ、オーケストラと一体となって演奏します

5年に一度ショパンの故郷ワルシャワで開催されるショパン国際ピアノコンクール(以下ショパンコンクール)。1927年創設のこの長い歴史を備えたコンクールは、歴代の優勝者や入賞者の多くがコンクール後に国際舞台で大きな活躍することで有名となり、いまや「世界一のコンクール」と称されている。

2018年、これにもうひとつのショパンコンクールが加わった。ショパン国際ピリオド楽器コンクール(以下ショパンピリオドコンクール)と名付けられたもので、本家のショパンコンクールと同様に5年に一度の開催である。第2回は昨年10月5日から15日までワルシャワで開催された。

かくむ 馨しく繊細で上質な演奏を披露

第1回はポーランド出身のトマシュ・リッテルが第1位を獲得し、大きな話題を呼んだ。リッテルは1995年ポーランド生まれ。ワルシャワとモスクワでフォルテピアノ、チェンバロなどを学び、現在はピリオド楽器とともにモダンピアノも演奏。両方の楽器でレパートリーを広げている。彼は2023年6月に来日し、プレイエルでリサイタルを行ったが、ショパンのノクターン第4番、第1番、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第30番、モーツァルトの幻想曲、ショパンの《24の前奏曲》というプログラムで馨しく繊細で上質な演奏を披露し、ピアノ好きの心をとらえた。非常に説得力があり、しかも洞察力に富んだピアノイズムで、プレイエルを美しく豊かにうたわせた。

リッテルはショパンピリオドコンクールを受けたのは、先生や周囲の人々の意見ではなく、完全に自身の意志によるものだという。そしてフィナールでは、18世紀オーケストラと共演することができた。

「18世紀オーケストラはひとりひとりが素晴らしい音楽家の集まりで、みんなが本当に音楽を愛しているという感じが伝わってきます。仕事として

演奏している人はまったくいません。みんなが自分の演奏を楽しみながら、オーケストラとしてアンサンブルを心から楽しみ、私たちソリストにも温かい目を向けてくれます。本選のリハーサルからそうした空気を感じ取り、のびのびとリラックスして演奏することができました。コンクールで審査員が点数を付けているのに、私はまったくそれを意識することなくオーケストラとともにコンチェルトを楽しむ、そんな思いで演奏することができました」

クラコヴィアクは伝統的な民俗舞踊

その結果、リッテルは見事、ショパンピリオドコンクールの記念すべき第1回の覇者となった。2024年3月の18世紀オーケストラとの共演では、ショパンの「演奏会用ロンド《クラコヴィアク》op.14」を演奏する。

「18世紀オーケストラと一緒に演奏できるのは無上の喜びですね。コンクールのときはオーケストラとのリハーサルも時間が限られていたため、集中して本番に備えましたが、今回はオーケストラと色々な響きや表現を試してみたいと思っています。少しは時間に余裕があると思いますので…。『演奏会用ロンド《クラコヴィアク》』は、ショパンの数少ないピアノと管弦楽のための作品のひとつです。ピアノ協奏曲に比べ、演奏される機会はそう多くはありません。クラコヴィアクというのは、古都クラクフの伝統的な民俗舞踊で、2拍子を取り、シンクベーションや弱拍のアクセントに特徴があります。ポーランドのお祭りなどでは、よく踊られる舞曲ですね。ショパンはこれを巧みに作品に取り入れ、リズムカルで美しい作品に仕上げています。今回は、18世紀オーケストラとの弾き振りを披露しますが、まさに大きなチャレンジだと感じています。でも、オーケストラと一体となり、自分もその一員になったつもりで演奏できます」

今後、リッテルはショパンをメインに古典派を数多く演奏し、マスタークラスでの指導も増やしていくという。芳醇な香りを放つ彼のショパン。その空気を全身に纏いたい。

取材・文=伊熊よし子

堺 アルフォンス・ミュシャ館

2023 12.2 SAT 2024 3.31 SUN

「開館時間」9:30-17:15(入館は16:30まで)【休館日】月曜日(休日の場合は開館)、休日の翌日(1月9日-2月13日・3月21日)、展示替臨時休館日(2月6日・7日)、年末年始(12月29日-1月4日)【観覧料】一般510円 / 高校・大学生310円 / 小・中学生100円【主催】公益財団法人堺市文化振興財団 / 堺 アルフォンス・ミュシャ館【後援】在堺チェコ共和国名誉領事館【協力】府中市美術館 / 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 / 星野画廊 / OGATAコレクション / 一般社団法人太平洋美術会 / 京都府立図書館 / 堺市博物館 堺市立美術館 堺市内にお住まいの65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方と介助の方は無料。※20人以上の団体は割引料金適用となります。事前にお問い合わせください。※その他各種観覧料制度があります。〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館(JR堺駅下車徒歩約3分)【TEL】072-222-5533【FAX】072-222-6833【HP】https://mucha.sakai-bunshin.com

教師——画家のもうひとつの顔。

本展の舞台は、1900年前後のパリの画塾。かつてアカデミズムの巨匠に学んだミュシャは、装飾画家として活躍する一方、画塾で次世代に画を教えました。生徒の中には、洋画を志す日本人留学生の姿も。自ら手を動かして画を語る、ミュシャの熱き指導。さあ、あなたも教師・ミュシャの画論に触れてみませんか。

ようこそ
ミュシャの
教室へ。

デッサン講座や各種トークイベントも開催予定。くわしくはHPで!

サカ イ sacayメイト募集

登録無料 sacayメイト 検索

堺市文化振興財団やフェニーチェ堺で取り扱うチケットを便利にご購入いただけるサービスです。

4つのsacayメイト特典

- 先行予約 チケットがいち早く予約できる(一部公演を除く)
- WEBチケット購入 どこからでもチケットが買える
- メルマガ配信 最新の公演情報をメールでいち早くお届け
- その他 お得な情報が届くかも?

登録数 53,000人

フェニーチェ堺・堺市文化振興財団への寄附のお願い	情報誌設置場所(季刊)
<p>フェニーチェ堺をはじめ堺市文化振興財団をご支援いただく寄附金を募集しております。公益財団法人である当財団への寄附は税制上の優遇措置が受けられます。詳しくはホームページ、又は堺市文化振興財団 総務課までお問い合わせください。TEL:072-228-0114(平日9:00～17:30) FAX:072-228-0115</p>	<p>堺市各区役所情報コーナー、文化会館、図書館、その他堺市関係施設。南海線、泉北高速鉄道の主要駅。その他、配布協力施設など。</p>

彫

ふれる堺。

堺市出身で世界を舞台に活躍する木彫師の前田暁彦氏。だんじりの彫師としてスタートしたキャリアを縦横に発展させ、国際的に有名なデザイナーとのコラボや伝統技術の粋に収まらない海外展開で注目されています。



25年ぶりにすべての仕事を国産にした前田氏作新調だんじり

そして外の世界へ

木彫師への道のり

—木彫師になるのを初めは反対されたそうですが

堺市の鳳で生まれ育ち、両親や親戚はだんじりに興味がない中、僕と兄だけが熱心に祭りに参加しているうちに、だんじりの彫師になりたいと思つよつになりました。高校卒業時に父に打ち明けたところ、代々公務員の一家で商売や他の道に進んでいる人間もおらず、反対されました。ただその時に父から、大学を卒業すれば好きにしたいと言われ、とりあえず進学することにしました。堺にはだんじりの彫師さんがおらず、どうすればなれるかも分からなかったからです。両親は大学に通っているうちに諦めるだろうと思つていたようです。在学中に僕の町のだんじりが新調されることが決まって、当時まだ青年団員だった僕も特別に新調委員会に入れてもらい、毎週彫師さんの工房に見学に行くようになりました。その時に後の親方と出会いました。

工房へ通う中で彫師への憧れがますます高まっていきましたが、この世界は中卒が高卒で弟子入りするのが普通で、親方も「大卒は取らない」と断言していました。僕も度は諦め、就職活動をして内定をもらいましたが、4年生になつて会社の事前研修が始まり、本当に人生これでいいのかと考えながら歩いていったとき、鏡に映った覇気のない自分の姿が目に入りました。これにハッとして、その場で父に電話し「戻ったら相談がある」と伝えました。

—岸和田を離れて大阪市に移転しました

大正時代の第一次新調ブームと平成の新調ブームで大阪南部のだんじりはほぼすべて新しくなりました。一度新調すると7、80年〜100年は新たに作らないので、現在はまったく新調の仕事がありません。昭和30年代にはだんじりの彫師は1軒しかありませんでしたが、今はうちの1門だけでも7軒あり、全体では30人以上の彫師がいて飽和状態。修理の仕事はありますが、2、3年を費やして作る新調の仕事がないと、だんじり彫師は食べていけないのです。僕が弟子入りした頃はだんじりの元請けの工務店は5社しかありませんでしたが、今は15社。そうなる価格破壊が始まるのはどの世界でも同じです。材料費を落とすのは難しいため、しわ寄せが下請の彫師にきてしまい、工賃はどんどん落ちていきます。斜陽産業の典型的なパターンですね。あと数年もすると専業のだんじりを彫る職人はいなくなり、副業化していくと思います。

仕事は山ほどあった頃から、新調に依存する業界のシステムに安住しているといつかダメになると思つていて、大阪南部だけで活動することに危機感を持つていました。それで3年前に、だんじりの仕事が途絶えても生きていけるように、そしてだんじり彫師の技術を残すため、12年いた岸和田を離れて天満に工房を移しました。

—だんじり以外の仕事はどうやって広げていったのですか

岸和田にいた最後の年、東京のお神輿屋さんから日光東照宮のお神輿の図案を描いてほしいと依頼が入りました。だんじりの彫師は木彫に関わるすべての作業ができますが、東京のお神輿屋さんは分業制のため、図案を描くことができないのです。

こんなチャンスはないのでぜひ、と描かせて

—入門を許されるまでにもドラマがあったそうですね

次は親方に弟子入りを認めてもらわなければなりません。真正面から行っても断られるのは分かっていたので、まず町内のだんじり新調委員長さんに相談したところ、親方に掛け合ってくれました。その後、改めて親方に弟子入りをお願いし上がった際に「いつか来るのか」と問われました。大学卒業まであと半年残っていました。明日から来ます！と即答し、次の日から通い始めました。あの時も「卒業後の4月から」と答えていたら断られていたはず。後で分かったのですが、親方は委員長さんに僕の弟子入りを断っていたそうです。ところが委員長さんが、「親方の元に3年間置いてセンスがないと判断したら、自分が営む鉄鋼会社で引き取る」とまで談判してくれていました。こうしたありがたい縁があった、無事に木彫師にたどり着くことができました。

—独立するまでの修業期間はどのようだった？

当時の職人は岸和田市が隣の貝塚市在住で、自転車を通ってくるのが普通。少し離れた堺から電車を通う僕は珍しい存在でした。生まれ育ちが本場の岸和田ではなかった

もらったところ、日光東照宮の宮司さんから一発OKをいただいたうえに、彫り物も請け負うことになりました。完成したお神輿も高く評価され、通常なら彫師は参加しない入魂式にまで呼んでいただきました。

そのときはじめて、そのお神輿がベトナムのダナンにオープンする大きなホテルに納めるために、ホテル三日月(※1)さんが発注したものだを知ったのです。

そこで社長さんに運よく名刺を渡すことができたことから、ホテル三日月さんとの縁が始まりました。

星野リゾート(※2)さんにはこちらからアプローチし、新今宮にできた「OMO7大阪ホテル」では大阪の伝統を伝えるプログラムとして、だんじり彫刻の講座を週に2回担当しています。

立ち位置を変えてみると国内も海外も可能性ばかりで、例えば関東圏では社寺仏閣系の彫師が老齢でどんどん引退しており、木彫に関わるあらゆる仕事ができるだんじり彫師にとっては大きなマーケットが広がっています。そこで僕がハブとなつて、岸和田の職人仲間仕事に繋げている最中です。

—海外展開について教えてください

とある欧州進出支援プログラムが契機となり、色の魔術師の異名を持つオランダのデザイナー、キャロル・バイングスさんのコラボレーションが実現しました。オランダと日本を行き来しながら半年以上の時間をかけて、木目と色彩を活かした木製プレートを制作。パリ、ニューヨーク、ロンドンに出ることも考えていましたが、海外進出をサポートする会社からUAE(アラブ首長国連邦)を勧められ、ドバイに行くことになりました。

そこで多くの方と知り合い、すっかり人生が変わりました。海外の方がどんな風に日

ため、堺もんとあだ名され、本当に彫師になれるのか疑われていました。勤務は朝8時〜夕方18時までで毎日20時まで残業があり、それが終わってからが自分の勉強の時間。僕はほかの人よりスタートが4年も遅れていて、寝る間を惜しんで勉強しないと追いつけません。リミットとされた3年間、毎日終電の時間まで死に物狂いで勉強しました。

彫師には欄間師や仏師などのジャンルがあり、どの修行期間もだいたい5年ですが、だんじりの彫師は日本の木彫の仕事がすべて網羅されていて覚えることが多く、修業期間は10年くらいになります。そろそろ独立するべきか迷っていた頃、兄弟子が「今の新調ブームの波に乗れなかったら、自分の名前前で新調のだんじりを作れなくなる」と教えてくれたこともあり、10年で独立しました。独立後は地元に戻ろうと考えていましたが、元請けの工務店さんに「堺は遠い」と反対され、岸和田市内に工房を構えました。当時は親方を通じてだんじり関連の仕事がほとんど入ってきて忙しく、必死にそれらをこなしながら、余った時間で工務店に営業をかけていました。納品物を気に入ってもらえたら次はもうちょっと大きな仕事をもらおう、というように少しずつ依頼を増やしていき、堺の長承寺や毛穴町などのだんじり新調に携わることができました。



日蘭協業アート作品 いるか

本の伝統工芸を見ているかも分かり、フランスでは作品展を開いてもらい、木彫をアートとして評価されて作品も売れています。

オランダとの関わりがきっかけとなり、来る3月10日には海外に持っていった作品の一部がフエーチエ堺で展示されます。ぜひご覧ください。(※3)



日蘭協業アート作品 花

前田暁彦(木彫師)

1976年堺市鳳生まれ。奈良大学社会学部卒業後、1999年木彫岸田に弟子入り。10年の修行をへて2008年独立し木彫前田工房を設立。2021年に工房を岸和田から大阪市天神橋に移転し株式会社木彫前田工房として法人化。岸和田の地車彫刻の文化と技術を弟子に授けながら、日本のみならず世界に広めるべく活動中。



木製プレート

※1 株式会社ホテル三日月：関東圏やベトナムのダナン市でホテルを運営する会社。

※2 株式会社星野リゾート：特色あるホテルやリゾート開発で知られる総合リゾート運営会社。

※3 作品展示：3月10日(日)「2つのショパン国際コンクール優勝者と川口成彦によるThe Real Chopin×18世紀オーケストラ」公演(本誌4ページ参照)で、大ホール2Fホワイエにて展示(公演チケットが必要)。その後、フエーチエ堺施設内で約1週間の展示予定。